

LITTLE BIG

第72号 2021. 10. 19

発行：福島県立図書館 こどものへや

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

TEL 024-535-3218

<https://www.library.fcs.ed.jp/>

【Pieces - かけらたち -】 本の中の言葉

当館の職員が読んだ本の中から、素敵な言葉、心に残った言葉を集めました。
みなさんの心にも届いたら、ぜひ手にとって読んでみてください。

◆他人の考えや思いを汲みとるのが上手であればあるほど、強烈なエネルギーを伴う感情を、もろに受け止めてしまうんじゃないだろうか。

『みつきの雪』（真島めいり／作 牧野千穂／絵 2020.1 講談社 p131）

◆「一番じゃないと全部だめってされる世の中でなんか、だれも生きていたくない。わたしは、そういうことを大きな声でいえる大人になりたいの」

『エリーゼさんをさがして』（梨屋アリエ／著 講談社 2020.11 p219）

◆未来の自分は、いまの自分がしたことで作られていく。だれかをおとしめるという行為は、そういうことができる人間にみずからなっていくという行為でもあるのだ。

『メイドイン十四歳』（石川宏千花／[著] 講談社 2020.11 p60）

◇「仕方ないんですよ。ヒトにはもともと、自分のテリトリーの外側にいる存在を敵だと考える思考が染みついているので」

『虫ぎらいはなおるかな？ 昆虫の達人に教えを乞う』（金井真紀／文と絵（河合伸幸）理論社 2019.5 p116）

◆流れてくる情報をただ漠然とさばいていく毎日より、自分で自分の道に灯りをともしていく人生。そっちのほうがいいな。

『嘘つきネットワーク』（久米絵美里／著 PHP 研究所 2021.1 p235）

◆友だちなんてそんなものよ。生きていれば、疎遠になったり、思いもよらない時期にまた会ったりするの。人間関係なんて、みんなそういうものじゃないかしら。

『チェリーシュリンプ わたしは、わたし』（ファン・ヨンミ／作 吉原育子／訳 金の星社 2020.11 p215）

◇大人になるってすばらしい……逃げ出すことが可能になるから。

『もうひとつの空の飛び方』（荻原規子／著 角川書店 2020.7 p42）

＼少し不思議？／

SF

science **f**iction

SFとは、サイエンスフィクション（science fiction）のことで、空想科学小説や空想科学冒険物語などと呼ばれることもあります。

神話や伝説、宇宙の話、タイムスリップ、ミステリー、ファンタジーなど、内容も様々です。



『つくられた心』

（佐藤まどか／著 ポプラ社 2019.2）

クラスに配置された、いじめ防止のためのガードロイド。その正体はクラスメイトの誰かのはずですが…。

『未来力養成教室（岩波ジュニア新書）』

（日本SF作家クラブ／編 岩波書店 2013.7）

日々、科学技術が発展していますが、みなさんはどんな未来を想像しますか？未来は一つではなく、また誰かから与えられるものでもなく、自ら作り出していくものです。そのための力となるのが、想像力と妄想力です。

9人の人気SF作家が10代に向けて語りかけます。

YAの本棚

10代を中心とする中高生の皆さん(YA)のためのコーナーから、本を紹介します。

今回のテーマは<小説>です。

『なりたて中学生 初級編』

(ひこ・田中／著 講談社 2015.1)

主人公の成田鉄男は隣町に引っ越しをしたため、仲がいい友達と離れ隣の学区の中学校へ通うことになりました。隣町には敵対関係にある後藤たちがいます。入学式当日、教室に行ってみるとそこには後藤の姿が…。鉄男は同じ小学校出身の人がいないので、クラスのみんなを観察しながら、中学校生活が始まりました。委員会活動、運動会、文化祭を通じて、中学生になるとは何かと考えていきます。そして、後藤との関係はどうなるのでしょうか。

小学6年生の終わりから中学1年生の秋頃までを描いた3部作です。

『なりたて中学生 中級編』(ひこ・田中／著 講談社 2015.11)

『なりたて中学生 上級編』(ひこ・田中／著 講談社 2016.10)

『チェリーシュリンプ わたしは、わたし』

(ファン・ヨンミ／作 吉原育子／訳 金の星社 2020.11)

中学2年のダヒョンは、クラス替えで隣の席になったウンユと、グループ課題でも一緒にメンバーになり、困惑してしまいます。仲良しグループの他のメンバーが、なぜか彼女をものすごく嫌っていたからです。小学生の時、友達から仲間外れにされたことのあるダヒョン。また大切な友達を失うまいと、楽しいながらも必死にメンバー達に気を遣っていたのですが…。

相談する時に食べるトポキヤ、給食に登場するタッカルビ、グループ課題をしながら食べるキムパブなど、物語には様々な食べ物が登場します。また塾や進学についての、登場人物たちの会話から、韓国の中学生の日常も感じられる物語です。

『スパイスクール<しのびよるアナグマ作戦>を追え!』

(スチュアート・ギブス／著 橋本恵／訳 小学館 2014.10)

12歳の少年ベンは、CIAのスカウトを受けてスパイスクールに転入します。ベンは、数学の才能が認められたのだと思っていましたが、実際は「数学が得意なのは暗号学の天才らしく見える」、「学校の近所に住んでいた」などの理由から、学校に潜入している敵組織のスパイをおびき出すためのおとりとして入学を許可されていました。がっかりしていたベンでしたが、先輩スパイのエリカに誘われ、敵のスパイを見つけ出すために2人で極秘捜査をすることになります。おとりという立場から常に危険と隣り合わせのベンがピンチを乗り越えるために奮闘します。

『ハジメテヒラク』

(こまつあやこ／著 講談社 2020.8)

中学1年生の綿野あみは、脳内で周りの人の様子や状況を実況するのが趣味の女の子。

たまたま入った生け花部で、たまたま部長の片思いを知り、文化祭で「実況付き生け花ショー」を成功させて恋の応援をすることを思い付きます。しかし自分の実況が周りからどう見られるか不安で仕方ありません。

思った事をつい口に出してしまう欠点があるあみは、かつて友達の恋の応援に失敗したトラウマがあります。部長の恋は、上手く応援することができるでしょうか？

『Fができない』

(升井純子／作 文研出版 2021.6)

引っ込み思案で、はっきりものが言えない直大は、中学スタートでもうまく立ち回ることができず、尊敬している兄からももらったギターを、家に帰って覚えることを心のよりどころにします。兄からFマイナーができるようになったらギターを教えると言われていたのです。

ギターを始めると、Fコードができなくて挫折する人が多いそうです。ギターではなくても、何かを始めると、必ず「Fの壁」のように難しくてあきらめてしまいそうになることってありませんか？ファミリーのF、フレンズのF。あなたにとってのFとは？